

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。警報が解除されるのはこの数字が「10」を切ってからです。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。

2020 年第 1 週の定点当たり報告数は **13.93**（患者報告数 64,553）となり、前週の定点当たり報告数 **23.24** より減少しました。

都道府県別では秋田県(45.20)、岐阜県(40.78)、鳥取県(26.31)、茨城県(24.98)、滋賀県(24.65)、愛知県(23.08)、福島県(22.93)、島根県(22.92)、沖縄県(22.84)、長野県(22.77)、大分県(20.17)、高知県(19.56)、北海道(18.12)、長崎県(17.61)、宮崎県(16.97)、群馬県(16.70)、福井県(16.68)、佐賀県(15.72)の順となっています。6 県で前週の定点当たり報告数より増加がみられ、41 都道府県で前週の定点当たり報告数より減少がみられました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の 5 週間（2019 年第

49 週～2020 年第 1 週)では AH1pdm09 (98%)、B 型 (1%)、AH3 亜型 (1%) の順となっています。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>) をご参照ください。

○2019-2020 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況 (長崎県感染症情報センター報告より) :

2020 年第 1 週 (12/30-1/5) のインフルエンザ報告は、長崎市 (15.47)、長崎県 (17.61) で、第 52 週 (12/23-12/29) 長崎市 (20.88)、長崎県 (20.46) と比較すると、長崎市、長崎県ともに減少しましたが、いずれも 流行レベルの指標 1 を超えておりました。50 週以降報告数が 10 以上 (注意報レベルの流行) となっています。

長崎市は、40 週、41 週、42 週と流行レベル (1 以上) となりましたが、41 週をピークに減少し、43 週では 1 未満となりました。しかしながら、44 週では、0.94 と再度増加し、45 週で 1 を超えました。

◎長崎県は、39 週以降 1 未満となりましたが、長崎市が 40-42 週で 1 を超え、流行レベルとなりました。43 週で 1 未満となりましたが、45 週で 1 を超えました。さらに、50 週以降で報告数が 10 以上 (注意報レベルの流行) となりました。今後より注意が必要な状況になりました。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1 部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。